

神崎市におけるマイクロツーリズム展望 —北部九州地方居住者を対象とした意識調査—

佐賀大学経済学部 4年生 中村 祐斗

1. はじめに

今般、新型コロナウイルスの感染拡大により、世界中で観光旅行者の動きが停滞している。国際的な移動制限はもとより、緊急事態宣言の発出を受けて国内でも都道府県をまたぐ移動の自粛が求められた結果、日本の観光産業は大きな打撃を受けている。佐賀県にも例外ではなく、少なくない打撃を受けている。

このような事態を背景に、人の移動と三密を避けながら観光を楽しむための手段としてマイクロツーリズムが注目されている。マイクロツーリズムとは、自宅から1時間圏内の地元や近隣への短距離観光のことで、株式会社星野リゾートの代表である星野佳路氏によって提唱されたものである（<https://www.hoshinoresorts.com/information/release/2020/05/90190.html>）。今後、新型コロナウイルス感染症が終息するまでの間、2003年のビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC: Visit Japan Campaign）以来、大きく依存してきたインバウンド需要の回復を願うのではなく、マイクロツーリズムの考えを参考に域内での循環型旅行に目を向け開拓していく必要があるだろう。そうした潜在的な域内需要を取り込むことは、佐賀県における観光産業のあり方を見直すきっかけになり得る。

本稿では、マイクロツーリズム推進の対象地域のひとつとして佐賀県神崎市に着目し、その可能性を検討したい。新たな域内需要を開拓していくための課題や消費者の意識を調べるために、北部九州地方居住者を対象としたアンケート調査をもとに検討する。本稿が域内需要の拡大に向けた取り組みの一助となることで、神崎市だけでなく佐賀県の地域活性化も寄与できる。

本稿の構成は次の通りである。第2節では、佐賀県内における観光資源を概観する。第3節では、佐神崎市の観光資源に対する回答者の意識調査を活用し、その特徴を簡易集計によって概観する。第4節では、神崎市の観光資源に対する回答者の支払い意思額の分析結果を紹介する。第5節は調査結果のまとめである。

2. 佐賀県における観光施設

佐賀県は10市（佐賀市、唐津市、鳥栖市、多久市、伊万里市、武雄市、鹿島市、小城市、嬉野市、神崎市）10町（吉野ヶ里町、基山町、上峰町、みやき町、玄海町、有田町、大町町、江北町、白石町、太

良町)で構成されている。各市町ともに有名な観光資源を有し、歴史的なイベントも行われている。本節では、アンケート調査の概観に先立って、同調査で取り上げた佐賀県内の観光資源を簡単に紹介しておく。

佐賀市では、毎年10月下旬から11月上旬にかけて、アジア最大級の国際熱気球大会(佐賀インターナショナルバルーンフェスタ)が開催されている。1980年に第1回大会が開催され、2019年度は92万8千人の来場者を誇るなど(<https://www.saga-s.co.jp/articles/-/450047>)、毎年世界中から多くの参加者や観客が訪れ賑わいをみせていたが、2020年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け中止となった。

唐津市では、毎年11月上旬に唐津神社で唐津くんちが開催されている。唐津くんちは1958年佐賀県重要有形文化財、また1980年国の重要無形民俗文化財に指定された。近年では海外にも広く紹介されており、2016年は、唐津くんちの曳山行事を含む「山・鉦・屋台行事」が、ユネスコ無形文化遺産に登録された。さらに、唐津市では呼子朝市という呼子港の東側の朝市通りで、毎朝7時30分からお昼の12時までとれたての魚介類や加工品、野菜や花が販売される催しがある。大正時代から続く地域の催しであるが、年間を通じて多くの観光客が訪れるようになっている(<https://www.karatsu-kankou.jp/feature/>)。

鳥栖市には、さわやかな空気と明るい陽光が似合うカリフォルニア州南部の街をイメージした施設として鳥栖プレミアムアウトレットがある。九州を代表するアウトレットとして、国内外有名ブランドが多数出展している。直近の来場者は2018年度で575万人と、インバウンド旅行者を含む大人数を集客してきた(<https://www.saga-s.co.jp/articles/-/450884#>)。

武雄市では、1,300年の歴史がある武雄温泉が有名であるが、1845年に武雄領主鍋島茂義の別邸跡として造園された御船山楽園も有数の地域資源である。武雄市の御船山山麓にあつて15万坪もの広さを持つ大庭園であり、2010年国登録記念物に登録された(<http://www.takeo-kk.net/sightseeing/>)。2018年度は約14万人の来場者を誇っている(<https://www.jalan.net/news/article/330439>)。

鹿島市には、京都の伏見稲荷大社、茨城の笠間稲荷神社とともに「日本三大稲荷」に数えられている祐徳稲荷神社がある。2018年度の来場者は約300万人で、九州では太宰府天満宮に次ぐ規模である(<https://saga-kashima-kankou.com/spot/301>)。近年、祐徳稲荷神社は、タイからのインバウンド旅行者の訪問先としても有名になっている。2013年にタイ人の訪日観光ビザ制度が緩和されたことをきっかけに、佐賀県はロケツーリズムの取り組みを開始した。佐賀県フィルムコミッション(文化課)がロケ誘致に取り組み、タイの映画撮影を祐徳稲荷神社で実施した。この映画がタイで上映されたことで、タイにおける佐賀県(祐徳稲荷神社)の認知度が向上した。佐賀県観光課が現地向けにプロモーションを展開し、タイからのインバウンド旅行者が大幅に増加した(https://action.jnto.go.jp/wp-content/uploads/2019/01/saga_inbound_0318.pdf)。

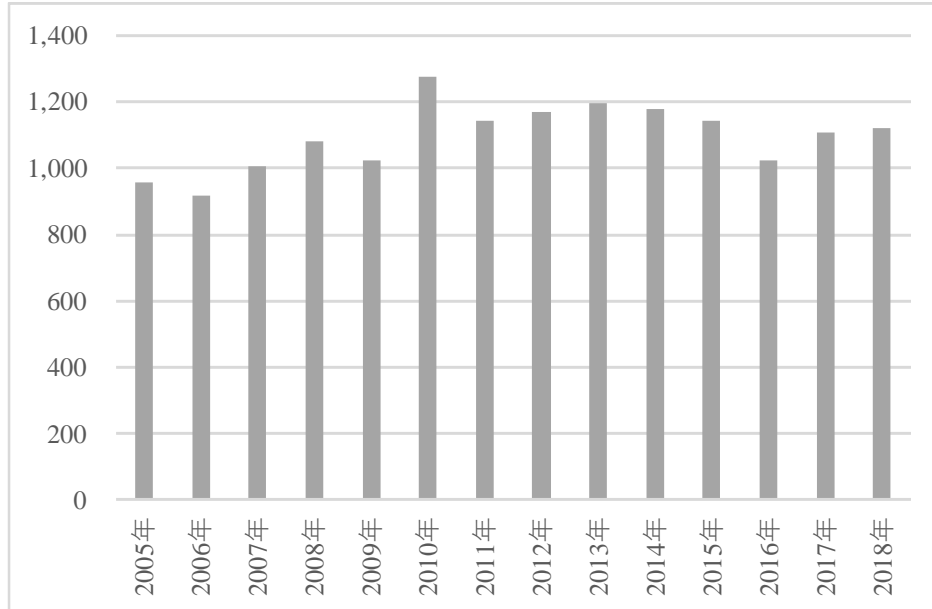
嬉野市では、武雄市と同様に嬉野温泉が有名である。「日本三大美肌の湯・嬉野温泉」、「佐賀・嬉野温泉」の名称で嬉野市が商標登録している(<https://spa-u.net/>)。

有田町では、日本を代表するお祭りである有田陶器市が毎年ゴールデンウィーク期間中に開催されている。全国のやきものファンが、山あいの静かなやきもの里である有田を目指し来訪し、町は賑わいをみせており、2019年度の来場者は126万人であった(<https://www.saga-s.co.jp/articles/-/370369>)。2020年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、Webを活用したオンライン開催となった。

最後に、今回の調査対象である神埼市では、九年庵と吉野ヶ里歴史公園が有名である。なお、吉野ヶ里歴

史公園は、神崎市と隣の吉野ヶ里町に跨っている。神崎市の観光客数は、2011年以降、ほぼ横ばいであることがわかる（図1）。

図1 神崎市の年別観光客数（単位：千人）



出所：佐賀県地域交流部観光課（2020）に基づき筆者作成

しかし、冒頭でも述べた通り、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、国内外の移動に制限がかかるなか、観光客数の落ち込みが予想される。今後、観光客数の減少幅を抑えていく上で、マイクロツーリズムの考えは参考になる。神崎市や吉野ヶ里町に近い北部九州地方居住者を対象として、九年庵と吉野ヶ里公園を含む周辺の観光資源をアピールし、域内需要の再発見に繋げることに期待がかかる。

3. アンケート調査の概要と結果

3.1 回答者の特徴

本稿では、2020年8月に実施した「佐賀県神崎市の観光に関するアンケート調査」より、北部九州地方居住者の回答を抽出し、その結果をもとに、佐賀及び九年庵の観光における課題を考察していく。調査では、国内での観光行動一般、また佐賀及び神崎市の観光に関して質問を行った。抽出された回答者数は115であった。

回答者の特徴から見ていく。年齢分布は、20代（27.0%）、40代（23.5%）、50代（24.3%）が中心であり、これらが全体の約75%を占めていた（表1）。平均年齢は43.3歳であった。

回答者の居住地分布は、福岡県が66人（57.4%）で最も多く、次に長崎県が45人（39.1%）であった。2県の合計で全体の約95%を占めていた（表2）。このことから、佐賀県の隣県の回答者が中心で、その観光行動を知る機会となった。

表1 アンケート回答者の年齢分布

	人数	%
10代	3	2.6
20代	31	27.0
30代	10	8.7
40代	27	23.5
50代	28	24.3
60代	8	7.0
70代	3	2.6
80代	3	4.3
合計	115	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

表2 アンケート回答者の居住地分布

	人数	%
福岡県	66	57.4
長崎県	45	39.1
大分県	3	2.6
佐賀県	1	0.9
合計	115	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

3.2 観光行動一般について

(1) 過去1年間の旅行経験

前年（2019年）1年間の国内旅行回数を見ると、全く出かけていない人が30人（26.1%）と最も多かった（表3）。一方、出かけた人については、1回が最も多く30人（26.1%）、次いで3～5回程度が26人（22.6%）であった。また、旅行に出かけた人に対し、その主な同行者を尋ねたところ、家族が46人（40.0%）であった（表4）。その他としては、友人が24人（20.8%）、学校・職場などの団体15人（13.0%）であった。このことから、1人当たりの旅行回数は数回程度であり、旅行の際は2人以上で行動していることがわかった。

表3 前年（2019年）1年間の国内旅行回数

	人数	%
0回	30	26.1
1回	30	26.1
2回	21	18.2
3～5回程度	26	22.6
6回以上	8	7.0
合計	115	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

表4 旅行時の主な同行者

	人数	%
友人	24	20.8
学校・職場などの団体	15	13.0
なし	14	12.2
家族	46	40.0
恋人	8	7.0
無回答	8	7.0
合計	115	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

さらに、国内宿泊旅行に費やした金額を見ると、1年間で2.5万円以下という回答が約半数を占めており、国内での旅行消費が低いことを示唆している（表5）。

表5 国内宿泊旅行に費やす平均金額（年間1人当たり）

	人数	%
2.5万円以下	52	45.2
2.6～5.0万円	42	36.5
5.1～10万円	13	11.3
10.1万円以上	8	7.0
合計	115	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

また、新型コロナウイルス感染症が克服された後の旅行に対する態度を尋ねたところ、「感染症流行以前ほど旅行には出かけないだろう」と回答した人が51人（44.4%）、「どちらとも言えない」が20人

(17.4%)、「わからない」が5人(4.3%)と新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて旅行活動にネガティブな気持ちを持つ人が半数以上を占めており、表5とあわせて考えると、国内での観光消費がさらに落ち込むことを示唆している(表6)。

表6 新型コロナウイルス終息後の観光行動に対する考え

	人数	%
感染症流行以前の計画のまま変わらない	33	28.7
感染症流行以前の計画以上に積極的に観光地を訪問する	6	5.2
感染症流行以前ほど旅行には出かけない	51	44.4
どちらとも言えない	20	17.4
わからない	5	4.3
合計	115	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

(2) 観光旅行において重視する項目

日本国内での観光旅行に出かける際、目的地の選択において重要視する項目を尋ねた。最も多かったのが、「現地での交通の良さ」の89人である(表7)。続いて、「観光地(現地)へのアクセス」の64人、「感染症対策が整っている」の53人、「現地で散策できる」の52人となっている。また、「その他」の回答には、「治安」や「駐車スペースの有無」が挙げられた。

表7 観光目的地選択の際に重視する項目(複数回答)

	延べ人数
現地での交通手段の良さ	89
観光地(現地)へのアクセス	64
現地で散策できる	52
Wi-Fi環境が整っている	20
キャッシュレス決済ができる	14
感染症対策が整っている	53
口コミサイトなどが充実している	39
その他	6

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

3.3 佐賀県への観光について

これまで佐賀県を訪れたことがあるかどうか尋ねたところ、ほとんどの回答者が隣県ということもあり、6回以上が63人(54.8%)と半数以上を占めた(表8)。また、佐賀県来訪の際に訪れた場所を見る

と、鳥栖アウトレットの66人が最も多く、次いで、祐徳稲荷神社が57人、呼子が55人、吉野ヶ里公園が54人であり、佐賀市外での観光が多く見られた（表9）。

表8 佐賀への訪問回数

	人数	%
0回	1	0.9
1回	2	1.7
2回	9	7.8
3～5回程度	20	17.4
6回以上	63	54.8
居住、通勤・通学経験がある	20	17.4
合計	115	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

表9 佐賀での訪問先（複数回答）

訪問先	延べ人数
佐賀インターナショナルバルーンフェスタ	51
唐津くんち	17
鳥栖プレミアムアウトレット	66
有田陶器市	49
嬉野・武雄温泉	4
祐徳稲荷神社	57
御船山楽園	22
吉野ヶ里歴史公園	54
呼子	55
九年庵	10

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

3.4 九年庵への観光について

(1) 九年庵に対する認識

アンケート調査では、回答者に九年庵を紹介する約3分半の動画を視聴してもらった後で、九年庵に関連する質問を行った。動画は、九年庵の全景と内部の映像を中心に、周辺の空撮映像、周辺の観光スポット（仁比山神社や吉野ヶ里歴史公園）の画像、ロケーションマップ、アクセス情報で構成されている。

今回の調査以前に九年庵を知っていたかどうかを見ると、「知らなかった」が62人（53.9%）と半数

以上を占めた（表 10）。知っているとした回答者の中でも、「名前を知る程度」が 14 人（18.3%）、「少し知っていた」が 26 人（22.6%）であり、「詳しく知っていた」という回答者はわずかに 6 人（5.2%）であった。

表 10 九年庵に対する認識

	人数	%
知らなかった	62	53.9
名前を知る程度	14	18.3
少し知っていた	26	22.6
詳しく知っていた	6	5.2
合計	115	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

(2) 九年庵への訪問意向

動画を見て、九年庵及び周辺地域に旅行で訪れてみたいと思ったどうかをたずねたところ、「とてもそう思う」と回答した人が 21 人（18.3%）、「ややそう思う」が 48 人（41.7%）という結果であった（表 17）。おおむね肯定的な回答ではあるものの、それほど強い来訪意向ではないといえる。また、否定的な回答者も約 20%程度見られた（表 11）。

表 11 九年庵及び周辺地域への訪問意向

	人数	%
とてもそう思う	21	18.3
ややそう思う	48	41.7
どちらでもない	19	16.5
あまりそう思わない	24	20.9
全くそう思わない	3	2.6
合計	115	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

次に、神崎市やその周辺に観光で訪れるとした場合の宿泊意向について質問を行った。その結果、「嬉野温泉・武雄温泉」と回答した人が 50 人（43.4%）で最も多かった。表 9 とあわせて考えると、過去に訪れたことのない施設にはある程度興味を持っていることがわかる。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響もあってか、「日帰りをするので宿泊はしない」と回答した人が 31 人（28.0%）で次点になっていた（表 12）。

表 12 神崎市への宿泊観光意向及び希望する宿泊地

	人数	%
目帰りするので宿泊はしない	31	28.0
神崎市	0	0.0
佐賀市	18	15.7
上峰町・吉野ヶ里町	0	0.0
嬉野温泉・武雄温泉	50	43.4
唐津市	5	4.3
福岡県内	5	4.3
長崎県内	5	4.3
熊本県内	0	0.0
上記以外の九州内	1	0.9
九州以外	0	0.0
合計	115	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

4. 神崎市と吉野ヶ里町の観光資源に対する支払い意思額

4.1 九年庵の観光活用

現在、九年庵に入園できるのは、春と秋の一般公開期間の限られた時間帯（8：30～16：00）のみで、美化協力金という名目で400円の入園料を支払うことになっている。この時期以外の観光活用の可能性を探ることを目的に、この期間・時間帯以外に有料で入園できる3つのパターンを仮想的に設定し、それぞれの訪問意向に関して質問を行った（表13）。

表 13 九年庵への入園パターンと訪問意向（複数回答）

入園パターン	延べ人数
周辺の提携宿泊施設の宿泊客限定で、早朝（午前8時前）・薄暮（午後4時以降）の入園が可能となる。	46
年間を通じ郷土史等の生涯学習講座を受講することを条件に、一般公開期間外の入園が可能となる。	34
ボランティアで施設の清掃に協力することを条件に、早朝（午前8時前）・薄暮（午後4時以降）の入園が可能となる。	35

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

回答結果をまとめると、「周辺の提携宿泊施設の宿泊客限定で、早朝（午前8時前）・薄暮（午後4時以降）の入園が可能となる」場合に参加してみたいと回答した人は46人、「年間を通じ郷土史等の生涯学

習講座を受講することを条件に、一般公開期間外の入園が可能となる」場合に参加してみたいと回答した人が 34 人、「ボランティアで施設の清掃に協力することを条件に、早朝（午前 8 時前）・薄暮（午後 4 時以降）の入園が可能となる」場合に参加してみたいと回答した人が 35 人であった。

4.2 九年庵と周辺観光に対する支払い意思額

さらに、観光活用の際の具体的な料金について検討を行うために、九年庵及び周辺観光の費用負担に関して質問を行った。ここでは、仮想評価法（CVM：Contingent Valuation Method）のダブルバウンド方式（二段階二肢選択方式）を採用し、九年庵に入園できる仮想の条件、また周辺観光に関する仮想の条件をそれぞれ設定し、それに応じた支払い意思額について質問を行った。各設問文は以下の通りである。

【九年庵に関する設問】現在、九年庵には春と秋の一般公開期間に入園料 400 円で、順路に沿って庭園を約 30 分で見回れます。九年庵の庵を改修し、庵でお茶を飲みゆっくり鑑賞できるメニューを作った場合、入場料〇〇円で入場しますか。

【周辺観光に関する設問】吉野ヶ里歴史公園、九年庵と近くの嘉瀬川ダムをめぐる緑と水の日帰りバスツアー料金が 10,000 円の場合、このバスツアーに参加しますか（博多駅発着の日帰り旅で、昼食代を含みます）。

これらの設問について、1 回目の提示額に対する支払いを受容した回答者にはさらに高い金額を、1 回目の提示額への支払いを受容しなかった回答者にはより低い金額を提示した。提示する金額は各設問で 3 パターン用意した。各設問の提示額及び回答を表 14～15 に示す。

得られた回答をもとに、対数線形ロジットモデルを用いて支払い意思額の推定を行った。推計にあたっては、栗山（2012）の CVM 計算ツールを用いた。推計結果から、支払い意思額は、九年庵入園については、中央値（回答者の半数が支払いを受容する金額）が 1,610 円、平均値が 1,964 円であった。一方、周辺観光については、推定された支払い意思額の中央値が 8,255 円、平均値が 12,159 円であった。

表 14 九年庵に関する設問の提示額と回答

T1	TU	TL	YY	YN	NY	NN	標本数計
2,000 円	3,000 円	1,000 円	1	10	18	9	38
3,000 円	4,000 円	1,500 円	1	3	21	14	39
4,000 円	5,000 円	2,000 円	4	4	5	25	38

注：T1=最初に示された金額、TU=最初の提示額に「入場（参加）する」と答えた人への 2 回目の提示額、TL=最初の提示額に「入場（参加）しない」と答えた人への 2 回目の提示額、YY=最初と 2 回目両方の提示額に「入場（参加）する」と答えた人数、YN=最初の提示額に「入場（参加）する」、2 回目の提示額に「入場（参加）しない」と答えた人数、NY=最初の提示額に「入場（参加）しない」、2 回目の提示額に「入場（参加）する」と答えた人数、NN=最初と 2 回目両方の提示額に「入場（参加）しない」と答えた人数

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

表 15 周辺観光に関する設問の提示額と回答

T1	TU	TL	YY	YN	NY	NN	標本数計
10,000 円	20,000 円	5,000 円	1	11	13	13	38
15,000 円	20,000 円	10,000 円	1	9	9	20	39
20,000 円	25,000 円	15,000 円	1	2	3	32	38

注：表内の記載については表 14 と同じ

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

4.3 九年庵と周辺観光に対する支払い意思額の要因分析

表 14～15 とともに、そのプランへの支払い額への評価は、対象となる施設の認知度などの可視化できない価値によって決まる部分がある。さらに、年齢や生活スタイルなどの個人の属性にも影響を受ける可能性がある。そこで、アンケート調査で回答してもらった属性データの中から影響を受けると考えられる要因をモデルに組み込んだ形で、支払い意思額の要因分析を行った。表 16 はその変数リストである。表 17～18 に要因分析の結果を示す。

表 16 要因分析の変数リスト

変数	値
年齢	10 代～20 代=1、30 代=2 40 代=3、50 代=4、60 代以降=5
世帯主	はい=1、いいえ=0
1 人暮らし	はい=1、いいえ=0
免許保持	はい=1、いいえ=0
ウォーキングを行うか	はい=1、いいえ=0
2019 年の国内旅行回数	0 回=0、1 回=1、2 回=2、 3～5 回=3、6 回以上=4
2019 年の旅行費/1 人	回答値
佐賀県来県回数	0 回=0、1 回=1、2 回=2、 3～5 回=3、6 回以上=4
九年庵を知っているか	はい=1、いいえ=0
九年庵に訪れたいか	はい=1、いいえ=0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

表 17 にしたがって九年庵入園の要因分析の結果を見ると、5%の有意水準を満たしたのは、「ウォーキングを行うか」と「九年庵に訪れたいか」であり、10%の有意水準を満たしたのは、「世帯主」であった。係数の符号がプラスのものは支払い意思額に正の影響を与え、逆に符号がマイナスのものは支払い意思

額に負の影響を与えることを示している。

つまり、九年庵に訪れたいと思っている人ほど、受容確率を上げる要因となっており、日常的にウォーキングを行っている人ほど、アンケートで提示したメニューとの関係から受容確率を上げる要因となっていることが読み取れる。また、世帯主ダミーの結果から、世帯主であると受容確率を下げる要因となることがわかった。これは、時間的制約などの要因が影響しているものと解釈できる。このことから、健康志向が高い人に、動画の視聴を促すことで九年庵来訪意欲を高め、収益の上がる事業にできる可能性があるものと考えられる。

表 17 九年庵入園における属性ごとの要因分析の結果

変数	係数	t 値	p 値
constant	21.702	6.825	0.000 ***
ln (Bid)	-3.180	-8.856	0.000 ***
年齢	-0.010	-0.051	0.960
世帯主	-0.896	-1.954	0.053 *
1人暮らし	-0.062	-0.113	0.910
免許保持	0.620	0.606	0.546
ウォーキングを行うか	0.936	2.170	0.032 **
2019年の国内旅行回数	0.053	0.318	0.751
2019年の旅行費/1人	-0.002	-0.072	0.942
佐賀県来県回数	0.182	0.768	0.444
九年庵を知っているか	0.002	0.004	0.997
九年庵に訪れたいか	0.910	2.097	0.038 **
n	115		
対数尤度	-123.404		

注：***は1%、**は5%、*は10%の有意水準を示す。

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

一方、表 18 にしたがって周辺観光の要因分析を見ると、1%の有意水準を満たしたのは、「1人暮らし」であり、10%の有意水準を満たしたのは、「2019年の旅行費/1人」であった。係数の符号がプラスのものは支払い意思額に正の影響を与え、逆に符号がマイナスのものは支払い意思額に負の影響を与えることを示している。

つまり、1人暮らしをしている人ほど、受容確率を下げる要因となっており、2019年に消費した旅行費が多い人ほど、受容確率を上げる要因となっていることが読み取れる。受容確率を下げる要因となしたのは、価値観の共有などができないことや集団での行動を好まないなどの要因が影響しているからであると考えられる。また、表 17 で見た1人暮らしの係数と比較して30倍以上となっているため、1人

暮らしをしている人にとっては、吉野ヶ里公園、九年庵と近くの嘉瀬川ダムをめぐる緑と水の日帰りバスツアーがあったとしても、興味の対象ではないものと解釈できる。このことから、1人暮らしの有無がプランの参加の可否に最大の影響を及ぼしているといえ、パッケージツアーを作る際は、友人との参加や家族、団体に焦点を当てることで、来訪意欲を高め、収益の上がる事業にできる可能性があるものと考えられる。

表 18 周辺観光における要因分析の推定結果

変数	係数	t 値	p 値
constant	29.858	5.998	0.000 ***
ln (Bid)	-3.086	-6.630	0.000 ***
年齢	-0.111	-0.567	0.572
世帯主	0.165	0.326	0.745
1人暮らし	-1.907	-2.651	0.009 ***
免許保持	-0.206	-0.097	0.923
ウォーキングを行うか	0.569	1.300	0.196
2019年の国内旅行回数	-0.248	-1.301	0.196
2019年の旅行費/1人	0.044	1.622	0.098 *
佐賀県来県回数	-0.421	-1.532	0.128
九年庵を知っているか	-0.360	-0.750	0.455
九年庵に訪れたいか	0.540	1.285	0.201
n	115		
対数尤度	-123.404		

注：***は1%、**は5%、*は10%の有意水準を示す。

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

5. おわりに

本稿では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、人の移動と三密を避けながら観光を楽しむための手段であるマイクロツーリズムに着目した。マイクロツーリズム推進の対象地域のひとつとして、佐賀県神埼市の可能性を検討するために、2020年8月に北部九州地方居住者を対象とした佐賀県神埼市の観光に関するアンケート調査を行った。回答者の支払い意思額に関する調査結果をもとに、神埼市の観光資源である九年庵の新たな活用方法を提案したところ、1,610円の支払い意思額があることがわかった。特に動画の視聴などによって事前に九年庵を認知している回答者ほど、また日常的に健康志向が高い回答者ほど、この金額を受容しやすいことがわかった。これらの結果を踏まえて、今後、神埼市が観光需要の取り込みを進めるための課題を考察する。

第1の課題は、神崎市全体を観光地としてアピールすることである。本調査では、回答者の半数以上が観光目的で佐賀県に6回以上訪問していたにもかかわらず、神崎市を目的として訪問していた回答者は2割にも満たなかった。佐賀県は観光地として商業施設（鳥栖プレミアムアウトレット）が人気を集めており、観光客にとって歴史や文化、体験等に関心を持ちにくく、佐賀県や神崎市が持つ自然や歴史的な施設を十分にアピールできていないと考えられる。九年庵に関する動画を視聴してもらう前は約半数の回答者が九年庵を知らなかったと回答していた。しかし、動画視聴後は約6割の回答者が来訪意志を持つようになっていた。そこで、まずは動画などを用いて神崎市が持つ自然や歴史ある施設を紹介していくことが望ましい。なかでも日常的に運動をしているような健康志向が高い人に寄り添うことは、より集客化を図ることができ、神崎市がもつ緑豊かな環境を味わってもらえると考えられる。

第2に、九年庵の新たな活用方法を検討することである。現在、九年庵に入園できるのは、春と秋の一般公開期間の限られた時間帯（8:30～16:00）のみで、美化協力金という名目で400円の入園料を支払うことになっているが、本調査において地域性を活かした仮のプランについて検討してもらったところ、宿泊客限定のプランや歴史を学べるプラン、ボランティア活動が付随したプランなど、年間を通じたプランを望む声が多かった。また、九年庵の新たなプランに対する支払い意思額の結果から、入園に回答者の半数が1,610円支払うことができるとされ、現在の400円の4倍以上の価値を生み出すことが可能であると示唆された。そのため、新たな活用方法を検討し、持続可能な活用を実現していく必要がある。

今回の調査でも明らかとなったように、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、多くの人が旅行活動にネガティブな気持ちを持っていた。そのため、まずは冒頭でも述べた通り、マイクロツーリズムの考えを参考に佐賀県神崎市を軸とした場合、北部九州地方といった比較的近場に居住する人々に観光施設を認知してもらい城内需要を獲得していくことが求められる。今回の調査のCVMで例示した「九年庵の新しい活用プラン」など、既存の施設の新たな活用方法を模索していくことも重要な課題となる。

参考文献

栗山浩一（2012）「ExcelでできるCVM Version4.0」

(<http://kkuri.eco.coocan.jp/>)

佐賀県地域交流部観光課（2020）「平成30年佐賀県観光客動態調査」

(https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00362356/3_62356_173094_up_ue5mb4s4.pdf)

本文で引用したHP一覧

嬉野温泉観光協会うれしの温泉のほほーん情報局

(<https://spa-u.net/>)

唐津観光協会「唐津のおすすめ」

(<https://www.karatsu-kankou.jp/feature/>)

佐賀県鹿島市公式観光サイトかしまいろ「祐徳稲荷神社」

(<https://saga-kashima-kankou.com/spot/301>)

佐賀県の観光情報ポータルサイトあそぼーさが「有田陶器市」

(<https://www.asobo-saga.jp/search/detail.html?id=1>)

佐賀県の観光情報ポータルサイトあそぼーさが「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」

(<https://www.asobo-saga.jp/search/detail.html?id=9>)

佐賀県地域交流部観光課「佐賀県インバウンド事例調査レポート」

(https://action.jnto.go.jp/wp-content/uploads/2019/01/saga_inbound_0318.pdf)

武雄市観光協会「見る・学ぶ」

(<http://www.takeo-kk.net/sightseeing/>)